

まちづくり座談会

7月19日から8月19日にかけて、各地区コミュニティセンターで開催されたまちづくり座談会。今年は、合計314人の方にご参加をいただきました。まちづくりに関する大切なご意見ありがとうございました。

皆さんからいただいたご質問・ご意見について主なものをお知らせします。

■複合施設整備について

Q・町民負担はどのようなのか。

A・基本設計時の総事業費は32・2億円、実質負担額は20・2億円と見込んでいます。実施設計において事業費の縮減の検討を行うとともに、公共施設整備基金の活用を図り（現在高8・5億円）、可能な限り町財政への負担を減らすよう取り組んでいきます。この事業を実施することにより町民税等の改正（税の負担増）を行うことはなく、他の事業や町民サービスの低下にならないように町政運営を行っていきます。

Q・複合施設整備の過程で、仮庁舎を利用することはないのか。

A・設計業者選定プロポーザルの時点から、整備事業費の縮減を念頭に入れており、既存の施設を活用し、新たに仮

庁舎を準備しないで整備を進め、完成後に引越しを行う予定です。なお、建設水道課は一時的に現在の西置賜行政組合白鷹分署を使用することを想定しています。

Q・南陽市民会館は全国から注目されているが、同じ木造施設として、どのような特徴や売りがあるのか。

A・一番の売りは、町産材を使うことです。町内の杉を伐採し、無垢材を町内で製材して、木造在来軸組み工法を基礎とし、地元の建設会社でも建築やメンテナンスが可能な施設の整備を考えています。このような方法は、今後の中規模公共施設整備のモデルとなるとともに、町内の林業・木材産業の再生・振興を図りたいと考えています。

加えて、町民の皆さんが使いやすい施設を目指し、図書館を1階に設置し、蔵書も現在の5万冊から7万冊まで収容可能とすることや、200

人規模の会議スペースなど、できるだけ多くの方々が集まれる施設にしたいと考えています。

Q・図書館の広さについてはどう考えるのか（狭くてもいいのではないか）。

A・面積については、平成23年度に教育委員会が策定した報告書を参考に、昨年の町民会議でも議論いただきました。昨今は活字離れが叫ばれ、また本町には書店が無いという状況の中で、子どもたちを含めた町民の方々にできるだけ本を手取る機会を提供したいと考えています。

■林業振興について

Q・森林伐採後の対応はどのようにお考えか。

A・再造林を森林所有者の負担のみで行うのは、すでに限界に達していると考えています。そこで、町では「緑の循

